

専業農家との協働による新たなキク農家育成

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

管内では近年、花き専業経営を目指す新規栽培者がほとんどおらず生産者組織の活動が硬直化していました。中でもキクは、生産量が最も多く管内の花き生産を振興する上で重要な品目ですが、高齢化により専業農家が2名まで減少し新たな専業農家の育成が急務となっています。そこで、高い栽培技術を持ち、後進の育成に前向きなキク専業農家との協働のもと、キク生産に意欲的な生産者を対象に栽培技術および経営支援を行い、将来キク生産の中心となる専業農家の育成に向け動き出しました。

【普及活動の内容】

これまで専業農家が生まれなかった原因として、①専門的なキク生産に必要な栽培技術を学ぶ機会がないこと、②専門化に向けた動機づけとなるような生産者同士の交流機会がないこと、が考えられました。そこで、栽培技術研修会と生産者同士のネットワークづくりに向けた意見交換を内容とする複数年の専業農家育成プログラムを立ち上げました。



写真1 専業農家のハウスで親株管理のほ場実習をする様子

実施にあたり、普及指導員は研修内容の提案と場の設定、活発な意見交換が行われるよう司会進行を行い、栽培技術等に対する助言やほ場実習の受け入れ

に関し専業農家に協力を求めました。令和3年度は6回の研修会を開催し、普及指導員による座学研修のほか市場担当者や民間の専門家も招き、土づくりや病害虫防除に関する勉強会、ほ場実習や市場訪問、生産者同士の意見交換会を実施しました。

【普及活動の成果】

研修会をきっかけに生産者の間に交流が生まれ、実習で学んだ技術を自身の栽培に活かすなど変化が見られました。対象のうち2名は今年度新たに県のきく部会に入会され、うち1名は小菊と黒大豆で新規就農し、研修会を通して得たネットワークを活用し技術向上と経営確立に向け取り組まれています。またもう1名はこれまでの栽培方法を見直し、電照栽培の導入を検討される等、栽培改善につながっています。

今後は活動を県域に拡大し、対象者同士のほ場巡回により更なる交流活性化を図っていくとともに、個々の栽培技術向上に向けた個別支援を行っていく予定です。

◎対象者の意見

親株の管理方法や市場、農薬の情報などを学ぶことができ、ためになった。競りの仕組みや小菊の栽培管理について実践的なところをもっと学びたい。(生産者 H 氏)